

日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2023

シンポジウム「いちからはじめる外来がん治療専門薬剤師への道！」

### 外来がん治療専門薬剤師への道のり

総合メディカル（株） そうごう薬局 久留米医大前店

牧原 直

2022年4月に外来がん治療専門薬剤師（以下、BPACC）に認定された。BPACCは外来がん治療認定薬剤師（以下、APACC）の要件に加えて「薬局が病院と連携するために必要な実地の業務に関する一定水準以上の知識および経験」が求められる。自身のBPACC認定までの道のりを報告することで、認定を目指す薬剤師の後押しとしたい。

私は2014年に現在の勤務先に赴任した。主応需先は地域のがん診療連携拠点病院であり、必然的ながん患者の対応が増え、主応需先病院との合同研修会や近隣薬局との情報交換会等を行う中で、がんに関する認定資格への意識が高まった。2018年頃よりJASPOのセミナーや薬剤師会主催の臨床腫瘍薬学セミナーに参加し、2020年より本格的にAPACC認定を目指して試験勉強を開始した。その中で専門医療機関連携薬局の人的要件に「がん薬物療法に関する専門知識を持つ常勤薬剤師を配置する必要がある」となったことは最大の動機付けとなった。筆記試験や症例作成に対しては社内の育成プログラムによる支援を受けることで合格することができた。APACCの試験勉強と並行して、2021年8月～9月にがん診療病院連携研修に参加した。連続30日間の研修であり、薬局の人員調整が困難な中、社内より多くの支援を受けることで研修が実現した。抗がん薬の調製業務や外来化学療法室での患者指導等を通して非常に多くのことを学び、貴重な経験ができた。この研修を通じて学んだ成果や課題、反省点等は特にお伝えしたい。BPACC取得後の2022年5月より当薬局は専門医療機関連携薬局に認定された。これまで以上に病院との連携や薬剤師会活動も含めた地域との連携を意識して行動しているが、その中で今後の展望についても触れたい。

最後にコロナ禍にも関わらずがん診療病院連携研修を受け入れて頂いた先生方、BPACC認定に向けてご支援いただいた全ての方々と、発表の機会を頂いた関係者の皆様に心より御礼申し上げます。